

感染症の一覧と登園の目安

①医師が記入した登園許可証が必要な感染症です。登園の際には、必ず当園許可証をお持ち下さい。

病名	潜伏期間	感染しやすい期間	症状	登園の目安	備考
麻疹（はしか）	8～12日	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	<ul style="list-style-type: none"> ・38℃以上の高熱・咳・鼻水・結膜充血・目やにができる ・熱が一時下がる頃、小さい斑点が頬の内側にできる ・再び熱が高くなり、耳後部～全身に発しんが広がる 	熱が下がって3日を経過していること	
風しん（三日ばしか）	16～18日	発しん出現の7日前から発しん出現の7日後ぐらい	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱の程度は一般的に軽い ・小さいピンク色の発しんが、全身に広がり、約3日で消える ・耳の後ろや首のリンパ節が腫れ、痛みがある 	発しんがすべて消えていること	妊娠初期の妊婦さんが感染すると、目や耳や心臓等の先天異常のこどもが生まれることがあります
水痘（水ぼうそう）	14～16日	発しん出現1～2日前から「かさぶた」ができるまで	<ul style="list-style-type: none"> ・発しんは体幹から全身に、頭髪部や口腔内にも出現する ・小さい赤い斑点は、水ぼう、かさぶたの順に変化する ・強いかゆみがある 	すべての発しんが「かさぶた」になっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・かき傷による二次感染、化膿に注意する ・妊婦さんが発症すると、胎児に影響することがあるので、注意する
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	16～18日	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱（1～6日） ・耳の下（耳下腺）あごの下（顎下腺）などが腫れる ・腫れは片側ないし両側で、痛みがある 	耳や顎の下等が腫れてから5日を経過し、かつ、全身状態がよくなっていること	
インフルエンザ	1～4日	発症の24時間前から発症後3日程度まで	<ul style="list-style-type: none"> ・突然、高熱がでて3～4日間続く ・身体のだるさ、関節痛、筋肉痛、頭痛などの全身症状を伴う ・咳、のどの痛み、鼻水などの呼吸器症状を伴う 	発症した後5日を経過し、かつ、熱が下がって2日を経過していること <u>（乳幼児にあっては、3日を経過していること）</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいを励行する ・マスクを着用する等、咳エチケットに努める
咽頭結膜熱（プール熱） （アデノウイルス感染症）	2～14日	発熱、充血等の症状が出現した数日間	<ul style="list-style-type: none"> ・39℃前後の発熱、のどの赤みや痛み、頭痛、食欲不振が3～7日続く ・結膜炎（目の充血）目やにや涙が多くなることもある。 	主な症状（発熱、のどの痛み、目の充血）が消失してから2日を経過していること	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいを励行する ・便中に長期間ウイルスが排出されるため、おむつ等の取り扱いには注意
百日咳	7～10日	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な咳（コンコンと咳き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸う）が長期に続く ・夜間眠れないほどの咳がみられ、咳とともに嘔吐することもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特有の咳が消失していること。 ・または5日間の適正な抗菌薬による治療を終了していること 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は1回量は少なく、回数を多くして、消化のよいものにする ・ワクチン未接種者がかかると重症化しやすい
流行性角結膜炎（はやり目）	2～14日	充血、目やに等の症状が出現した数日間	<ul style="list-style-type: none"> ・目の充血、目やに、涙、まぶたが腫れる ・幼児の場合、目に膜が張ることがある 	結膜炎の症状が消失していること	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いを励行する ・タオルなどは必ず別々のものを使う
腸管出血性大腸感染症（O-157等）	4～8日		初めは軽い腹痛と下痢、何日かすると激しい腹痛と血便が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ・医師により感染のおそれがないと認められていること ※無症状病原体保有者の場合、5歳未満の子どもについては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登園可能 	

感染症の一覧と登園の目安

②医師の診断を受け、表の「登園の目安」を確認し、登園可能かを判断する感染症（※登園後、園児の症状により、自宅での療養をお願いする場合があります。）

病名	潜伏期間	感染しやすい期間	症状	登園の目安	備考
溶連菌感染症	2～5日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の高熱 ・のどの痛みがあり、しばしば嘔吐をとこなう ・舌にイチゴのようなブツブツができる。 	抗菌薬内服後 24～48 時間経過していること。ただし、治療の継続は必要	処方された薬は、症状がおさまっても医師の指示通り、最後まで飲む
感染性胃腸炎（ウイルス性）	ノロウイルス（12～24時間） ロタウイルス（1～3日）	症状のある間と、症状消失後1週間 ※量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているため注意が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の吐き気、嘔吐、下痢から始まる（ノロウイルス・ロタウイルス・アデノウイルス・サポウイルスなどが原因） ・ロタウイルスが原因の場合、下痢便が白くなることもある 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事ができること 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐物は広範囲に拭き取る ・症状が落ち着いた後も便からウイルスの排出が続くため、おむつ等の取り扱いに注意する
手足口病	3～6日	手足や口腔内に水ぼうし・潰瘍が発症した数日間	<ul style="list-style-type: none"> ・手のひら、足の裏、口の中に発しんができる、おしりやひざにできることもある ・口内炎がひどくて、食事が食べられなくなることがある 	発熱がなく（解熱後1日以上経過し） 普段の食事ができること	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいを励行する ・回復後も便からのウイルスの排出は続くため、おむつ等の取り扱いには注意
伝染性紅斑（りんご病）	4～14日	発しん出現前の1週間	<ul style="list-style-type: none"> ・軽い風邪症状の後に、頬が赤くなったり、手足に網目状の紅い発しんが出たりする ・ほてりや軽いかゆみ、痛みを感じることもある 	全身状態が良いこと （発しんが出た時にはすでに感染力がなくなっています）	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦さんがかかると、胎児に影響することがあるため、流行中は送迎等をなるべく避けるか、マスクを装着する
ヘルパンギーナ	3～6日	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排出しているため注意が必要）	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の高熱が1～3日続く ・口の中やのどの奥に小さい水ぼうしや潰瘍ができる ※のどの奥の水ぼうしは痛みが強く、食事や水分がとれないこともある 	発熱や口の中の水ぼうし・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	<ul style="list-style-type: none"> ・回復後もウイルスは便から排泄されるので、おむつ等の取り扱いには注意
RSウイルス感染症	4～6日	呼吸器症状がある間	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱、鼻水、咳等から始まる ・しだいに咳症状がひどくなり、喘鳴（ゼイゼイ）を伴い呼吸が苦しくなる 	重篤な呼吸器症状がなくなり、全身状態がよいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の感染者は、症状が軽くても感染源となるため、手洗い、咳エチケットを励行する
マイコプラズマ肺炎	2～3週間	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	<ul style="list-style-type: none"> ・咳、発熱、頭痛などのかぜ症状がゆっくと進行する ・咳は徐々に激しくなり、数週間に及ぶこともある ・中耳炎、発しんを伴うこともあり、重症化することもある 	発熱や激しい咳が治まっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクを着用する等、咳エチケットに努める
带状疱疹しん		水疱を形成している間	<ul style="list-style-type: none"> ・数日間、軽度の痛みや違和感、時にはかゆみ ・多数の水疱（水ぶくれ）が集まり、紅斑となる ・膿疱や血疱、びらん（ただれ）になることもある 	すべての発しんが「かさぶた」になっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みがある場合は温めると痛みが和らぐ ・妊婦さんが発症すると、胎児に影響することがあるので、注意する

↓下表へ続く

感染症の一覧と登園の目安

②医師の診断を受け、表の「登園の目安」を確認し、登園可能かを判断する感染症（※登園後、園児の症状により、自宅での療養をお願いする場合があります。）

病 名	潜伏期間	感染しやすい期間	症 状	登園の目安	備 考
伝染性膿痂疹 (とびひ)	2～10 日	効果的治療開始後 24 時間まで	<ul style="list-style-type: none"> ・湿しんや虫さされあとをかきこわした部分に細菌が入り感染をおこす ・水ぼうがができる ・かゆみが強く、かきこわした手で他の部位や周囲に触れると、さらにそこから広がっていく 	皮しんが乾燥しているか、ジクジクしているところをガーゼ等でおおえる程度のもの ※ <u>頭部や顔、症状が広がっている等ガーゼでおおえない場合は、集団生活で感染のおそれがあるため、登園しないで下さい</u>	※当園ではプールは禁止
アタマジラミ	10～30 日、卵は約 7 日で孵化する	アタマジラミがいる、卵が付着している間	<ul style="list-style-type: none"> ・卵は耳の周囲からえりあしにかけて多く付着している ・子どもでは多くが無症状であるが、吸血部分にかゆみを訴えることがある 	駆除をしていること ※アタマジラミが見つかったら、必ずお知らせ下さい。(皮膚科を受診して下さい)	※当園ではプールは禁止 ・丁寧に頭髪を観察する ・毎日大人が丁寧にシャンプーをする
水いぼ		水ぼうがある間	<ul style="list-style-type: none"> ・いぼがあるという以外には、症状はほとんどない。 ・水疱内の液にウイルスが存在し、細かい傷口から侵入して感染する 	水ぼうがなくなり、乾燥している ※自然治癒は、かなり時間がかかるため、 <u>できるだけ早めに病院でとってもらして下さい</u>	※当園ではプールは禁止 <u>すぐに体中に広がるため、できるだけ早く病院で処置をする（※他の子にもうつります）</u>

※大阪市のホームページの「教育・保育施設等のための感染症お知らせ資料集」・厚生労働省：保育所における感染症対策ガイドライン（2018 年改訂版）参照